

人口縮小社会における問題解決のための検討委員会（第 25 期第 8 回）議事要旨

日時：2023 年 3 月 13 日（水）13 時～15 時

会場：Zoom 会議

出席者（敬称略、五十音順）

委員：

石原理（幹事）、石井クンツ昌子、伊藤公雄、遠藤薫（委員長）、遠藤求、大沢真理、金子隆一（副委員長）、武石恵美子（幹事）、筑本知子、水口雅、

事務局：齊藤美穂、稲元祥吾

議事

1. 前回議事要旨の承認等

前回議事要旨について承認された。

2. 人口縮小に関する状況

金子隆一副委員長 話題提供「コロナ禍の人口動向」

報告は資料のとおり

〈質疑等〉

- ・ 日本の出生数、死亡数は外国人を除くデータだが、二重国籍の人のデータの取り扱いはどうなっているのか。
→ センサスデータの信頼性は国によっても異なるが、国連において各国のデータを整合性が取れるように調整してデータを発表しているものである。どこまで正確かという点で議論の余地はあるが、国連のデータは一定の信頼を持ってよいだろう。
- ・ 「平時のシステム」と「有事のシステム」の対比は重要。有事のシステムにおいて災害が発生した時に、個人が置かれた状況やコミュニティの社会的脆弱性が反映されるという点で、外圧だけではなく、外圧と社会的問題の掛け算として考えるべき問題である。
- ・ 日本の志望で、「老衰」の問題がある。地域によって老衰死の多い都道府県があり、これを「大往生」として捉えるのではなく、治療・診断をしないという点で問題があると考えられるべきである。女性の死亡原因の第 2 位が老衰という現状もあり、この問題をきちんと捉えるべきである。
→ 近年日本では死因として老衰の件数が急増しており、世界最長寿国として新しい事態に直面している。コロナのケース等で、超高齢を理由に処置に違いがあったなら問題なので、今後詳しく分析してみる必要がある。

3. 伊藤公雄委員 話題提供「人口縮小者のへの処方箋について」

報告は資料のとおり

〈質疑等〉

- ・ 「ケアされる力」という表現が気になる。男性はケアを受けてきたからこそ仕事ができ
てきたということを忘れがちである。
→男性は、ケアをした体験がないために、ケアを受ける側としての自覚がない点に問題
がある。
- ・ 教育問題に関して、日本では学ぶ機会が若い世代に集中しており、この点でリカレント
教育の機会が十分でないという問題もあるのではないか。
→日本の若い年代だけでの教育というのは問題がある。欧米のように社会人になった
後の社会的な支援は重要である。
- ・ 「リカレント教育」が、政治的にも正しく受け止められないで発信されてしまうという
問題がある。
→少子化の問題が放置されてしまったのは、政治の問題も大きい。
- ・ 過去の政治の問題はあるが、今何をすべきか。日本はジェンダー平等が非常に遅れてお
り、この点は1つの突破口になるのではないか。
→世界経済フォーラムがジェンダーギャップ指数を発表するのは、ジェンダー平等と
経済発展は相関している点を重視しているからであり、ジェンダー平等とダイバーシ
ティ（多様性に対応する社会）が重要であろう。
- ・ 90年代に放置した問題の1つに外国人労働の問題があげられているが、今後の人口問
題を考える上で移民問題については議論すべきではないか。
→外国人が入ってくることによるコンフリクトがあることを踏まえると、移民政策に
ついては法制度を整備することと併せて検討する必要がある。日本は制度をきちんと
作らないままに受け入れを拡大してきた点に問題がある。韓国は受け入れのための法
制度を作って受け入れに舵を切ったといえる。
- ・ 大学の役割がこれから変化するのだろう。
- ・ ジェンダーの問題に加えて、世代間の問題も考えなくてはならないだろう。外国人の受
け入れについての壁が大きい社会となっている点も問題である。ジェンダー、世代、外
国人の問題は、根っこは同じであろう。
→高齢者と若者の相互理解をどう進めるかという問題がある。
- ・ 問題はそれぞれ相互に関連している。例えば、ノルウェーではジェンダーギャップは小
さいとはいえ、ケアを移民に依存しているなどの実態があり、ケアと移民の問題は繋が
っている。
→外国人労働者を割り切って受け入れる国があるが、日本はそこを目指すものではな
いだろう。日本は対等に扱おうとする意識があり、そこでコンフリクトが生じるという
こともある。ケア労働と外国人労働を重ねてしまうような方向にならないことが重要
だろう。

4. 学術フォーラムについて

遠藤委員長より、資料の説明がなされた。

フォーラム開催日は2023年8月29日もしくは30日に開催予定。参加者が多い方で決定することとする。

登壇者について、委員会メンバー外の西浦博京都大学教授（コロナパンデミックを通してみた社会的な課題）に講演をお願いすることについて提案があり、承認された。

登壇者についてどのような内容でプレゼンをするかについて、必要に応じて調整をすることになる。

5. 提言について

遠藤委員長より、資料の説明がなされた。

提言の方向性については承認された。コロナパンデミックと関連付けて提言を行うことについて合意された。

内容と担当に関して意見が出され、修正が行われることとなった。

主な意見は以下のとおり。

- ・「研究力の低下」は教育を含めて（2）とする。
- ・各項目について表現を検討する。
- ・出生時の低体重出生児の問題についてもどこかで触れられないか。
- ・「世界の動向」人口縮小は世界的に問題になりつつあり、この点をフォローすることもある必要になるだろう。

提言の取りまとめの詳細について、遠藤委員長からメールで連絡をすることとする。